

## カメムシ類防除対策

平成24年産検査米において、2等以下に格付けされた理由の約70%がカメムシ類被害による着色粒(斑点米)が原因です。今年も発生が多くなると予想されますので、適切な防除でカメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょう。

### 【カメムシ類防除適期と薬剤】

出穂後5日～10日までが薬剤散布の目安です。各地域内における水稻の出穂状況を的確に把握し適期防除に努めて下さい。発生が多い場合は2週間後に追加散布します。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

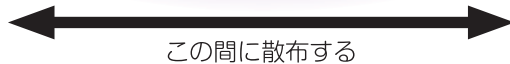
写真提供  
三重県病害虫防除所



穂が出た頃



穂が少し傾きかけた頃



この間に散布する

### 防除薬剤

薬剤名	散布量	使用時期/使用回数
スタークル粒剤または粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで/3回以内
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで/3回以内

雑草はカメムシの「棲み家」です。出穂2週間前までに草刈を終わらせましょう。出穂期前後に畦畔の雑草を刈り取ると、カメムシ類の圃場への侵入量はさらに多くなります。やむを得ず刈り取る場合は、圃場への薬剤散布をあわせて実施して下さい。

## 秋野菜の害虫防除

秋野菜には、多種類の食害性害虫が発生します。これらの害虫に対して、非常に優れた防除効果を示す殺虫剤『プレバソフロアブル5』を紹介します。

本剤は、幅広い作物に使用できます。キャベツ、はくさい、レタス、非結球レタス、ブロッコリー、カリフラワー、チンゲンサイやコマツナ等の非結球あぶらな科葉菜類、ほうれんそう、だいこん等の作物で使用できます。アオムシ、コナガ、ヨトウムシ等のチョウ目害虫や、ナモグリバエ等のハエ目害虫に高い効果を示します。

※詳しい登録内容についてはラベルをご確認下さい。

### 《主な特長》

- ◆育苗期後半のセルトレイ、ポット等での灌注処理で約4週間。定植後、生育期散布処理で約2週間の長い効果。
- ◆散布回数や労力、コストの低減を実現。
- ◆チョウ目をはじめ、ハエ目など幅広い害虫をまとめて防除。すばやい効きめで食害を止める。
- ◆適用作物への高い安全性。

※農薬はラベルに記載された使用方法及び使用上の注意事項を守って使用しましょう。



営農  
インフォメーション



EINOU  
information

害虫防除